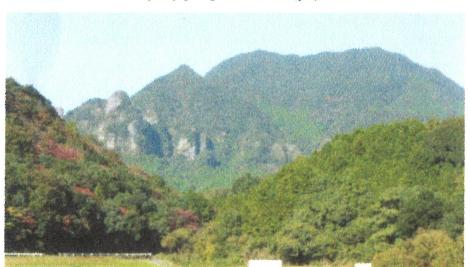




## 青螺山: 青螺御前を越元連山最高峰に立つ



▲登山口の乳待坊からの展望



▲宮野上原集落から望む青螺山／歐アモンブラン峰と前衛ドリュウ峰を思わせる

山名 RQNo. 4 青螺山  
RQNo. 5 青螺御前

ルート No.3-2 乳待坊から青螺山を越え、中腹道を戻る

登山口 RQNo. 50 乳待坊

最寄駅 佐世保線三間坂駅  
黒髪神社までバス移動で、登山口まで3kmの車道歩きが必要

駐車場 乳待坊展望台  
10台可能、公衆便所あり

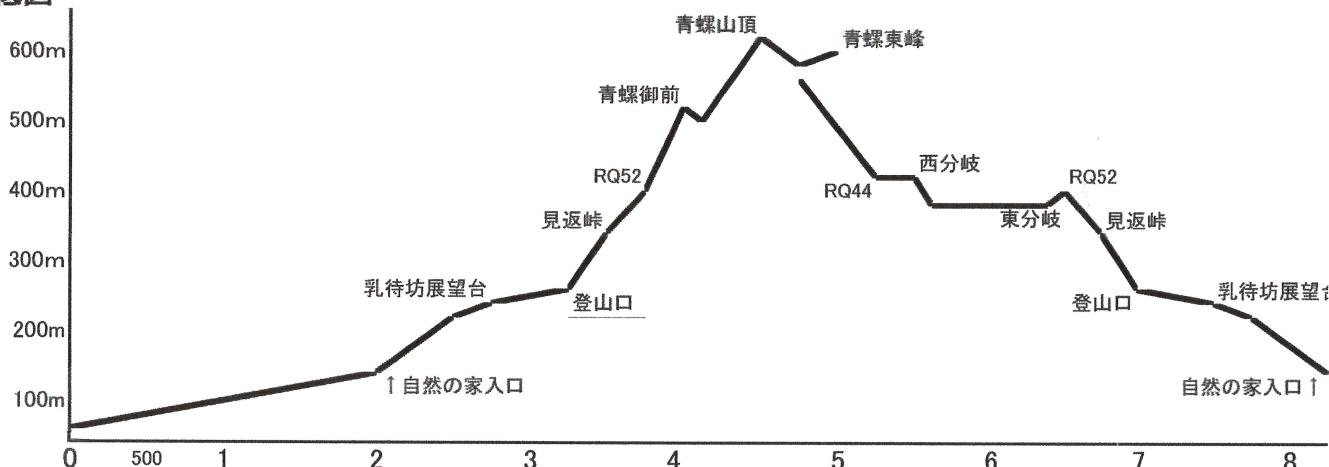
### (注1) RQの意味

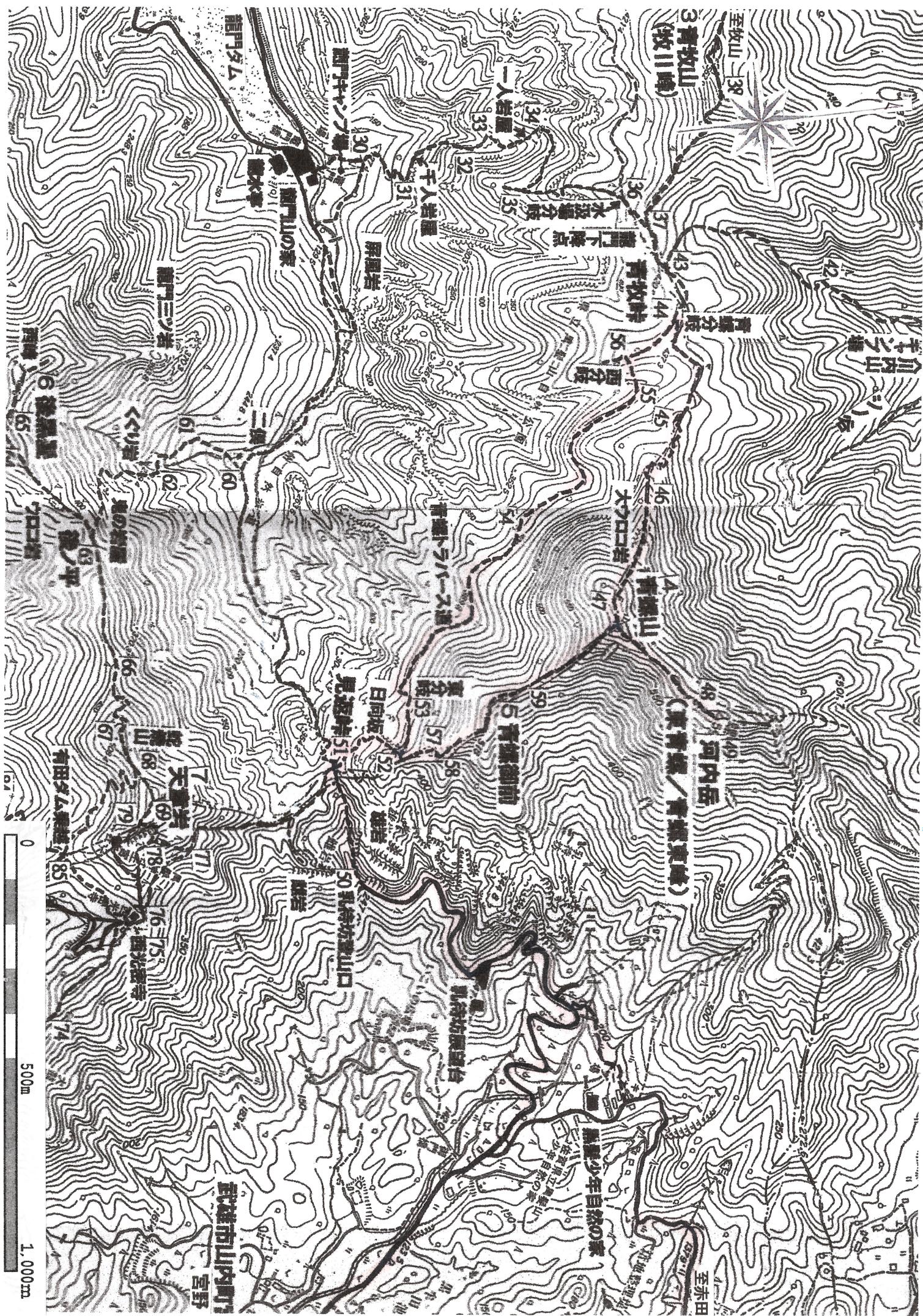
レスキュウポイントの意味です。  
本来なら、RESCUEですから、短縮造語は「RC」とすべきですが、  
ここでは「RQ」として表記しています。

### コースタイム

宮野バス停	30分	少年自然の家入口	20分	乳待坊展望台	10分	乳待坊登山口(RQ50)	20分	見返峠(RQ51)
見返峠(RQ51)	20分	青螺東登山口(RQ52)	20分	青螺御前(RQ 5)	30分	青螺山(RQ 4)	20分	青螺東峰(RQ49)
青螺東峰(RQ49)	20分	青螺山(RQ 4)	50分	青螺西登山口(RQ44)	10分	西の分岐(RQ56)	30分	東の分岐(RQ53)
東の分岐(RQ53)	5分	青螺東登山口(RQ52)	10分	見返峠(RQ51)	15分	乳待坊登山口(RQ50)	10分	乳待坊展望台

### 高低図





## アプローチ



▲宮野から望む黒髪山(左)と青螺山



▲乳待坊展望台への車道



▲水洗トイレのある乳待坊展望台駐車場

### 公共交通機関利用の場合

JR佐世保線三間坂駅で下車し、駅前バス停から伊万里方面への路線バスに乗り。黒髪神社前バス停で下車し、神社を南へ廻り込むように車道を歩く。小さな峠を越して進むと、右手に独特的な山容の黒髪山と青螺山が見えてくる。T字路を北(右)にとり、青螺山に向かって進み、車道が右へ湾曲する所に黒髪山正面登山道の分岐があり、住吉城址の鳥居が見えている。小路(くうじ)と呼ばれる集落を抜け、左手に黒髪の杜温泉を見て更に進むと右手にパーライト鉱石場跡(現:有田焼工房ギャラリーHAYAMA)がある。右へ湾曲し道なりに進み、やきもの窯場をぬけると次第に登りとなる。左手に牧場を見て、黒髪少年自然の家の入口に着く。自然の家は右に分かれる車道を登る。分岐をまっすぐ進み、左手に老人ホームを見て橋を渡ると、植林帯に入り高度を上げる。植林帯を抜けると乳待坊公園に入り、岩峰群の下を進み、左手に乳待坊の象徴「縫ぎ岩」を見る。いよいよ岩峰が頭上にそびえてくる。やがて左手にトイレのある駐車場があり、小高い山上に展望台がある。ここから、雌岩・雄岩が見え、岩峰群の向こうに、これから登る青螺御前と青螺山が見下ろしている。この岩峰群のパノラマも圧巻である。登山口は雄岩と雌岩の間にあり、未舗装の林道500mの所だ。展望台から登山口には林道終点の旋回場兼広場があり、普通車5台分のスペースはある。

### マイカー利用の場合

カーナビ設定:黒髪少年自然の家(0954-45-2170)

武雄市と伊万里市を結ぶ県道26号の宮野宿交差点から、有田方面の県道257号に入り、商店街の切れた所(神社あり)から北(右)手の市道に入る。すぐに、公共交通機関利用の場合で述べた黒髪神社からの市道が東(右)手から合流する。それからは、公共交通機関利用と同じ道を北上する。黒髪少年自然の家入口でカーナビ誘導から外れ、前述の市道を登っていく。トイレのある乳待坊展望台駐車場に20台は駐車でき、さらに未舗装の林道500m先の登山口に5台は駐車できる。しかし袋状で狭い。

## 登山ルート



### 乳待坊登山口(RQ50)から見返峠(RQ51)

林道終点の山手につくられた階段道を登る。雌岩と雄岩の間にある空谷の左岸を登ることになる。短いが傾斜のある石積み階段状の登山道である。狭い谷で迷うことは無い。

登山道の両脇に岩壁が見えると、雌岩と雄岩の横を通過していくことになる。台地状の左手に踏み跡がある。かつての修驗場「泊り岩」への道で、5分程度。時間と体力が残っていれば、帰り道で立ち寄りたい。登山道が丸木を並べた階段状になれば、見返峠はすぐである。

### 見返峠(RQ51)から青螺御前(RQ5)へ

見返峠は昔ながらの雰囲気がある四差路の峠道だ。

西(まっすぐ)へ下れば龍門であり、南(左)へ登れば黒髪山、北(右)への道は青牧峠への道で、途中から青螺山へ分かれ。

峠から北(右)への道を進む道は、青螺南尾根の南端の西(龍門側)斜面に刻まれている。小谷を廻り込み、鎖に導かれて支尾根に出る。



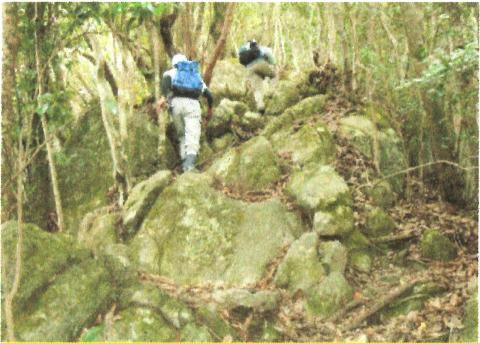
▲乳待坊登山口(上)と見返峠(下)



▲日向坂／老木の向こうに三つ岩



▲青螺御前から見上げる本峰は圧巻



▲青螺南尾根の急登にあえぐ



▲青螺西尾根の石楠花自生林



▲青螺西尾根の岩場を慎重に下る

この岩尾根は陽当たりと、龍門三つ岩を眺める景観も良好で、「日向坂」と呼ぶ。ここにはイブキジャコウソウ、ヤツガシラも自生する。

小休止の後、支尾根を登り、樹林に入ると青螺東登山口 (RQ52) に出る。

分岐を北西(左)へ進むと青螺トラバース道で、下山路に使う。

青螺御前へは、北東(まっすぐ)へ登り、青螺南尾根に取り付く。

北(左)へいったんは尾根を下るが、いよいよ本格的な青螺南尾根の登りだ。

ザイルに導かれて急斜面を登ると屈曲点 (RQ57) で、斜面を右にトラバースして青螺御前尾根の屈曲点 (RQ58) に出る。ここから青螺南尾根の直登が始まる。

小段を過ぎて、再度の直登となり、傾斜が緩やかになれば、

青螺御前 (RQ5) に着く。岩の上からは西に龍門ダムの湖水が光っているが、正面には、これから再び直登が始まる青螺本峰の壁が、立ちふさがっている。

黒髪連山最高峰の洗礼を受ける感じだ。

### 青螺御前(RQ5)から青螺本峰(RQ4)へ

青螺御前の岩峰をザイル頼りに下り、尾根の西側を北方に下るとすぐに鞍部 (RQ59) に出て、再び尾根の直登が始まる。

直登といつても青螺御前で経験した直登に比べ、少しだらかに感じる。

最初の小段が8合目で、再び登り岩場をザイルたよりに左へ巻き、9合目で、傾斜が増す。最後は樹木にすがって壁を攀じると、すぐに青螺山頂 (RQ4) に着く。180度の展望が待っている。多良岳の稜線の向こうに、雲仙平成新山も見える。

### 青螺東峰／河内岳(RQ49)へ

余力のある人は、2等三角点のある、青螺東峰を往復しておきたいところだが、近年は転落や道迷いの事故が多く、登山道整備が完了するまで、通行を遠慮願っている。

どうしても青螺東峰まで行く場合は、東に延びる尾根道の閉鎖をくぐり抜け、岩尾根を樹木にすがりながら下る。途中の右手にろうそく岩を見て、小さい暗部 (RQ48) を過ぎれば、東峰 (RQ49) に着く。

標高は599mの2等三角点だが、今は周囲の樹木が繁茂してしまい、三角点の機能は無い。

北(左)の尾根道は急坂となり、下りきると山ノ城方面と、少年自然の家方面へと分ける。樹木の尾根だが、所々に岩壁があり、転落の危険性が多いので、安易に踏み入ってほしくない尾根である。

どうしても、この尾根を下る必要がある場合は、地図と磁石、非常食は必携である。

### 青螺本峰から西尾根を下る

下山路は、青螺山頂 (RQ4) から北に延びる木立の尾根を進み、展望のない小さな鞍部 (RQ47) に下り着く。道標とザイルに従い北西(右)に斜面を下る。やがて傾斜が緩やかとなり、ザイルもなくなると西に延びた尾根を下ることになる。

この辺りはツクシシャクナゲが自生している。開花期は5月上旬だが、最近は、表年が3年周期でやってくる。

登山道は木立ちの中の痩せ尾根で、やがて南(左手)の展望が開ける所がある。南(左)側は大鱗岩の上辺にあたり、転落危険個所。強風時は要注意である。

尾根を下りついだ所がRQ46番で、やせ尾根の突端。南(左手)の岩場を下る。ザイルと岩角で確保しながら慎重に下り、岩の間を抜けて尾根の北側へ回り込む。今度はザイルに導かれて尾根の西斜面を下る。

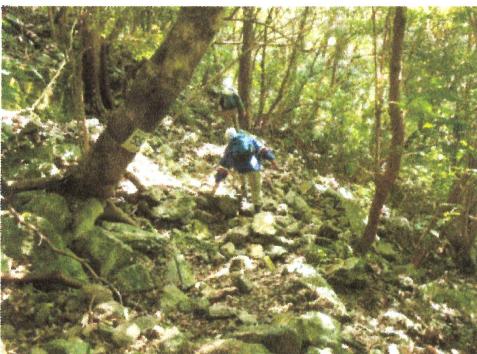
斜面下りの最後も8mの岩場があり、ザイルと木の根にすがりながら下り立つ。

西へ進んで再び尾根に出る (RQ45)。岩尾根を西に迂回してきたことが分かる。

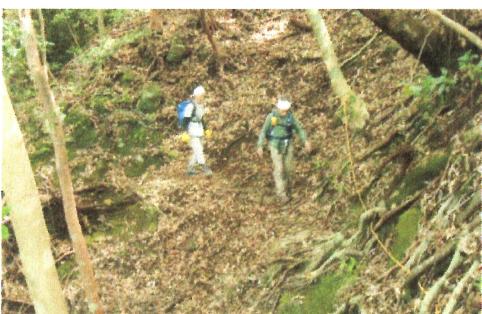
樹木の中の西尾根を、再び北(右手)に回り込みながら下る。小鞍部を過ぎて、さらに樹木の間の踏み跡頼りに下ると、青螺西登山口 (RQ44) に出る。



▲青螺トラバース道へ／RQ56番



▲青螺トラバース道／ガレ沢



▲日向坂を過ぎ見返峠へ小谷を渡る

西(右)は青牧峠(RQ43)を経て、牧山や大川内山、龍門へ至る。

見返峠への下山路は分岐を東(左)にとる。

### 青螺トラバース道を見返峠へ

樹林の中の登山道は青螺西尾根の西側斜面をほぼ平坦に進み、支尾根に出るすぐ青螺トラバース道の西分岐(RQ56)に出る。ここで道標に従い東(左)へ下る。尾根をまっすぐ進めばゴルジュ状の岩場に入り込んでしまい、転落事故の危険性が高い。

西の分岐から急傾斜を標高差15m下り着いた後は、平坦に変わる。

すぐに涸れ沢(RQ55)を横断し、すぐにガレ場となる。ここもケルン頼りに横断して青螺南西面の尾根を横断する。尾根といつても肥満体親父の腹をまわるような感じ途中にRQ54を見て、トラバース道は1か所ターンしている。

やがて涸れ沢を横断する。この沢の頭は青螺本峰と青螺御前の鞍部である。

トラバース道をさらに東進し、支尾根で方向を変える東の分岐(RQ53)にでる。この尾根を這い上がって、尾根を左に登り、ヒノキ植林帯に入る。

かつてはこの支尾根を越して、まっすぐ進んだが、登山道の崩落でルートが変わった檜の植林帯の道を2回ターンして、植林帯を抜け、沢を横断して進むと、日向坂上部の分岐で、青螺東登山口(RQ52)に出る。

景観を楽しんだら、鎖に従い、沢を横断して見返峠(RQ51)へ下り着く。

### 見返峠から乳待坊へ

見返峠(RQ51)は典型的な4差路で、南(まっすぐ)へ登れば黒髪山で西(右)へ下れば龍門渓谷。登山ルート案内は「黒髪山4-1」を参照されたい。乳待坊への下山路は東(左)へ丸太敷きの階段を下る。

すぐに石の階段道となり、平坦となれば雌岩・雄岩の間となる中間点で、再び階段状を下れば乳待坊登山口(RQ50)に下り着く。

そこから林道を歩く。すぐに雄岩の根元をまわり、砂防ダム工事入口を左に見て、乳待坊展望台に着く。

## みどころ



▲展望台から雄岩と雌岩、背後は天童岩



▲この洞の土台は流紋岩の上に砂岩があり、上屋は安山岩が覆う。激しい火山活動の一幕をみることができます。

### 乳待坊公園

乳待坊は、なんといっても岩峰群が魅力です。地元の宮野古場郷では、岩峰ごとに名が残っているのでしょうか、本書ではまだそこに至っていません。近々にその作業に入りたいものです。

黒髪山域の火山活動は300万年前と言われます。

初期は国見連山から続く玄武岩構成の火山があり、黒髪連山の部分が陥没し、その後に南部で流紋岩が噴出して黒髪山を造り、さらに北部で安山岩が噴出して青螺・牧山などを造ったと考えられています。

安山岩峰の根元には石仏が祀られていますが、ここは真言密教の修験地でした。黒髪山岳修験は12世紀頃から始まったと考えられ、昭和50年頃まで、黒髪山中で白装束の信者さんが法螺貝を吹き、般若心教を唱えて修行していました。

さらに、ここは希少植物の聖地でもあります。固有種も多く植生し、全国各地からの愛好家を引き寄せます。しかしながら、心無い愛好家のために、この桃源郷は荒らされました。

全域が県立公園内ですが、民有地ということもあり、規制措置が遅れたこともあります。近年になってようやく、全域での採掘は禁止され、罰則制度も充実されてきました。

**バイカアマチャ**

ユキノシタ科

黒髪山系の植物：105ページ

植生 林内に生える

樹高 1~2mの落葉低木

葉 対生し、長楕円形で葉先が長く尖り、鋭い鋸歯を持つ。

花 黄色の雄しべと白色の花弁を持つ両性花を付ける。落葉後に永く残る装飾花が特徴。

開花期：7月

**和名の由来**

葉と装飾花が甘茶に、両性花が梅の花に似ることから。

**イブキジャコウソウ**

シソ科

黒髪山系の植物：99ページ

植生 陽当たりのよい岩場に生える

樹高 高さ5~10cmの常緑矮小低木

分類上は樹木とされるが、ごく小さな野草に見える。

枝 短毛があり柔らかく、地を這う。

花 枝先に紅紫色の花を舗状に付ける。萼は唇状である。開花期：7月

**和名の由来**

滋賀県伊吹山で発見され、葉が麝香のような甘い芳香を持つことから。

**セッコク**

ラン科

黒髪山系の植物：28ページ

植生 乾燥した岩場に着生する。

樹高 高さ20~30cmの多年草

茎 束生し、多数の節があり、節間には縦筋がある。

葉 披針形で質が厚く、葉の落ちた節から花茎を出す。

花 白色や桃色で、淡い芳香を放つ。開花期：5月

種子 秋に光沢のある黒色球形となる

**和名の由来**

希少度 黒髪連山では断崖絶壁にわずかに残るのみ。

**シジュウガラ**

フィールドガイド「日本の野鳥」：202ページ

大きさ L: 15cm

習性 全国的に留鳥。

特徴 頬の周囲は黒く、白い頬が目立つ。

体の上面は青灰色で、下面には胸から腹を通る黒く太い縦線がある。

捕食 秋冬には他種と混群となり、地上で落葉下の餌を探すことも多い。

啼き声 地鳴き：ツツチー、ツーツーチー、チツチツチチュカラ、ジュクジュク

さえずり：ツピやツーピー、ツツピピを繰り返す

写真／日本野鳥の会佐賀県支部／加藤芳隆

**コゲラ**

フィールドガイド「日本の野鳥」：214ページ

大きさ L: 15cmで、ほぼスズメ大のキツツキ

習性 全国的に留鳥で、低地から山地の林に棲む

特徴 頭から体の上面は黒褐色で、背と翼に白い横斑がある。

体の下面是汚白色で、眼から頬、顎線は黒褐色で、胸から脇に褐色の縦斑がある。

**捕食**